

目指したのは、サラウンドではなくピュア・オーディオ

AB Cinema 50 Special

メーカー希望小売価格 ¥415,000(税別)

コンプリートパッケージ

(高音質電源ケーブル AET-EVO-1302SV2 / 1.2m 付)

メーカー希望小売価格 ¥438,000(税別)

コンプリートパッケージ

(高音質電源ケーブル AET-EVO-1302SV2 / 1.8m 付)

メーカー希望小売価格 ¥439,000(税別)



コンプリートパッケージは AIRBOW Switch Leg を装着し、

AET 高音質電源ケーブル EVO-1302SV2 (1.2m または 1.8m) が付属する「お買い得セット」です。

サラウンドとピュア・オーディオを分ける必要はありません

これまでは、AV アンプとピュア・オーディオアンプは「違うジャンルのオーディオ」と考えられてきました。確かに少し前までの AV アンプの音は、ピュア・オーディオアンプには到底及ばないプアなものでした。

けれど DSP や DAC の高性能化によって AV アンプの音質が向上し、逆にピュア・オーディオアンプがデジタルボリュームを採用するなどの変化によって、今やその違いは音質よりも「チャンネル数」だけになっています。

今回ベースモデルとなる Marantz CINEMA 50 にも本来 AV アンプには不要なほどの贅沢な高音質回路「ディスクリット HDAM®」*が搭載されているなど、その中身は限りなくピュア・オーディオアンプに近づいています。技術的にサラウンドとピュア・オーディオアンプを分ける必要は、もうありません。

※「Hyper Dynamic Amplifier Module」の略称。オペアンプと同じ機能を、個別の部品を使ったディスクリット回路で作成された、マランツ独自の高速アンプモジュール。

サラウンドアンプの常識を超えるピュア・オーディオ音質を実現

とは言え、チャンネル数が多いだけでなく多機能・低価格を実現するため AV アンプでは、様々なコストダウンが行われているのも事実。その点では、豪華一点張りが有利とされるピュア・オーディオアンプとは成り立ちが違います。AIRBOW は、この「パーツのグレード差」に注目し、音質に重要な部分の可能な限りのパーツを変更することで驚異的な高音質を実現した AV アンプを送り出してきました。

今回完成した Cinema 50 Special は、Marantz CINEMA 50 の各回路に使われるパーツを 200 個近く交換し、その音質を同価格帯のピュアオーディオ・プリメインアンプと同等以上に高めることに成功した「新世代の AIRBOW サウンド」に仕上がりました。

Cinema 50 Special のチューンナップについて

Cinema 50 Special の改良で特に注意した点は次の 2 つです。

1 つの電源トランスを多数のアンプで共用する AV アンプの弱点を補うため、各チャンネルに大型の補助コンデンサーを追加することで電源の持ち合いによるチャンネル間の干渉を大幅に低減、AV アンプの領域を大きく超える緻密で濃厚な音場の再現を実現しました。

ピュア・オーディオアンプと同等に向上したアナログ回路の音質を生かすために、デジタル回路にはすでに生産が完了している「ブラックゲート・無極性型」、「OS コン (発売当時の音の良いモデルです)」などのスーパーパーツを大量投入し、高周波領域の電源追従能力とノイズ発生を徹底的に抑制、その音質を徹底的にブラッシュアップしました。

このデジタル回路の徹底的な改良は、副産物として驚くほどきめ細やかで透明感の高い画質をもたらしました。鮮やかでコントラストの高い美しい 4K/8K 映像は、大画面 TV やハイエンドプロジェクターの実力を十分に発揮させます。

サラウンドを必要以上に複雑にしたい！とお考えのあなたにベストマッチ

最近、続々とハイエンド AV アンプが発売されていますが、これらのハイエンド AV アンプは価格のみならず、チャンネル数が大幅に増加しているのも特徴です。しかし、AIRBOW が目指すサラウンドとは、スピーカーの数を必要最低限に留め、ミニマムなシステムからマキシマムなサウンドを引き出すシステムです。機材は黒子に徹し、主役は映画や音楽の「サウンド」であるべきだと考えています。

では、具体的にどうすれば少ないスピーカーで豊かな空間サウンドが実現するのでしょうか？

それは「一本のスピーカーの守備範囲」を広げることです。同じスピーカーを鳴らしたときに、その音がより遠くまでとどき、より細かいディテールまで高密度で再現出来れば、スピーカーを増やすことなく「濃密なサラウンド空間」が実現します。

徹底的な改良により「各チャンネルのサウンド」が大幅に向上している Cinema 50 Special なら、FR-C-FL-SR-SL の 5 つのメインスピーカーと、TFR-TFL-TRR-TRL の 4 つのエフェクトスピーカーで Dolby Atmos の魅力を完全に引き出すことが可能です。もし、天井にスピーカーを増設したくない場合、TFR-TFL-TRR-TRL の 4 つのスピーカーは「イネーブルド」でも納得のアトモス空間が再現されます。

表面的なことに目を取られている評論家やインストーラーは、機能やスピーカーの数の多さにこだわりますが実質的な問題はそこではなく、「一本のスピーカーの守備範囲を広げる＝基本の音質を高める」事が大切です。

力を抜いても良い音が出ます

AVアンプだから「常時サラウンドがお薦め」というのが、これまでのAIRBOW AVアンプの切り口でした。もちろん、Cinema 50 Specialもその例に漏れるわけではありませんが、Cinema 50 Specialの圧倒的で濃密な立体音響は、2chでもサラウンドでも変わらず発揮されます。

B&W 700シリーズ、Focal Sopra、Vienna Acousticsのようなペア100～200万円クラスのスピーカーと組み合わせても、まったく問題のない高音質が実現しますし、ハイレゾや非圧縮の高音質ファイルにこだわらなくとも、Air Playによる接続ですらハイエンド・ピュア・オーディオアンプと同等の音質が実現します。

Cinema 50 Specialならば、だれがどのように使っても常にAIRBOWライクな高音質が実現します。どうぞ肩の力を抜いてお使い下さい。

エイジング（慣らし運転）のお願い

パーツの選択と最適化をより入念に行ったCinema 50 Specialは、電源投入後からよい音がお楽しみいただけます。さらに「10時間」も鳴らせばほとんど意図した高音質に達します。多くのパーツが高性能&長寿命化されていますので、その良好な音質は長期間保たれます。

Cinema 50 Special 主な仕様

- スピーカー出力:110W+110W(8Ω)、FL/C/FR/SL/SR/TFR/TFL/TRR/TRL 9 系統
※フロントパイアンプ対応
- HDMI 端子:入力×6、出力×3
- 音声入力:ライン×5、フォノ(MM)×1
- 音声出力:11.4ch×1、ゾーンプリアウト×1
- デジタル入力:同軸/光デジタル各 2、USB(メモリ対応)×1
有線/無線 LAN、Bluetooth
- ヘッドホン出力:標準ジャック×1
- チューナー:FM/76.0-95.0 MHz、AM/ 522-1629 kHz
- 消費電力: 680W(定格)、20W(無信号時)、0.5W(待機時)
- 寸法/重量:442(W)×165(H)×404(D) mm /13.5 kg

おすすめスピーカー

《 B&W 》

- 700 S2/S3 シリーズ

702 S2/S3、703 S2/S3、704 S2/S3、705 S2/S3、
706 S2/S3、707 S2/S3、HTM71 S2/S3、HTM72 S2/S3

《 Polk Audio 》

- Reserve シリーズ

R100、R200、R200AE、R300、R350、
R400、R500、R600、R700、R900

《 Klipsch 》

- REFERENCE PREMIRE シリーズ

RP-8000F II、RP-6000F II、RP-600M II、RP-500M II、RP-504C
II、RP-500C II、RP-404C II、RP-500SA II、RP-502S II

※デジタル入力時、サンプリング周波数が切り替わる曲の頭で「ごくまれにプチツという小さなノイズが入る」ことがございます。これは仕様で改善する事が出来ません。小さなノイズでも気になさる場合は、貸出試聴などで確認をお願いいたします。万一の場合には、購入後 30 日以内なら返品を承りますので、安心してご購入下さいませ。